北海道建設新聞　2020年(令和2年)1月27日（月曜日）

人手不足対応など推進

道設備設計事務所協会が新年交礼会

北海道設備設計事務所協会は23日、ポールスター札幌で新年交礼会を開き、来賓22人を含む223人が参加し、関係者の健康と発展を願った。

山田修会長は、「令和が始まった昨年5月、新体制に移行した。副会長はじめ理事、会員の協力もあり、前年以上に活発な活動ができた」と感謝。「災害が多発する中、水害対策も含めた取り組みが大事。災害に強い設備設計の提案と継承をしていかなければ。人手不足など課題への対応を進め、イメージアップを図りたい。こともご指導、ご鞭撻（べんたつ）を」とあいさつした。

来賓の北海道防衛局の太田誠二調達部長が「パワーバランスの変化が加速化、複雑化して不確実性が増大している」と安全保障環境について解説。「中期防衛力整備計画に基づき、平時から有事まで計画的な整備を進めたい。技術力の向上、人材育成に努めてほしい」と要請した。

道建設部の大野雄一建築局長は日頃の協力に感謝した上で、業務報酬基準の改正に触れ、「おおむね設計委託料は上がるが、ボリュームゾーンの小規模では減額になる。道として独自ルールとして難易度係数を設定し、市町村にも周知を図りたい。分離発注にも努めたい」と説明。

札幌市都市局の佐藤博局長が「昨年の自然災害の多発で災害に強い都市基盤づくりを再確認した。アクションプラン2019に基づき毎年度1000億円規模の防災、バリアフリー化などを進める。快適な市民生活の実現を図っていきたい。引き続きご協力を」と伝えた。

北海道建築士事務所協会の庄司雅美会長は建築士試験の改正と4号物件設計図書の15年間保存義務化を説明。正確な設計図書の整備を呼び掛け、ことし1年の健康と発展を願い、乾杯した。

課題に対応し1年の健康、発展を願った